

もも・ネクタリン特報 ⑫ (ボルドー散布)



J A 中野市営農センター
J A 中野市りんご・もも部会

※1、今後の台風襲来による強風雨に備えて秋季ボルドー散布を実施し、越冬菌密度を減らすよう努めましょう。

(風雨による落葉と感染が同時に起こり、次年度への越冬菌が増加します)

※2、裏面には、縮葉病対策について記載しております。本年発生が多かった園地では、参考にご覧ください。

【せん孔細菌病対策 収穫後の薬剤散布】 収穫中の作物、隣接園への飛散（農薬汚れ）に注意

- *せん孔細菌病発生園は、ボルドー3回散布を徹底し、散布間隔は14日以内を厳守する。
- *台風襲来等の風雨が予想される前日までに散布を実施する。
- *薬剤が樹全体に到達するよう、散布前に徒長枝切りを実施する。（重要）

散布時期 散布品種	第1回 ボルドー散布	第2回 ボルドー散布	第3回 ボルドー散布
・早生種～中生種 ・晩生種(川白、黄金桃など)	収穫後(9月上旬～中旬)	第1回散布から 10～14日後	第2回散布から 10～14日後
・極晩生種(白根白桃など)	収穫後(9月中下旬～)	第1回散布から 10～14日後	第2回散布から 10～14日後



収穫後。下記のいずれかを選択して散布下さい。

ボルドー 体系

ムッシュボルドー 体系

散布時期：9月上旬～（収穫後）

散布薬剤： 水 100ℓ

展着剤（アビオンE）	50ml
ICボルドー412	3.3kg
スミチオン乳剤（3日前、6回）	100ml

対象病虫害：せん孔細菌病、
モモハモグリガ、ナシヒメシンクイ
ハマキムシ類、カメムシ類

散布量：10a当り 500ℓ

※ICボルドーは、今後収穫を迎える隣接園の果実に飛散しないように注意する（汚れに注意）

散布時期：9月上旬～（収穫後）

散布薬剤： 水 100ℓ

展着剤（アビオンE）	50ml
スミチオン乳剤（3日前、6回）	100ml
ムッシュボルドーDF	200g

対象病虫害：せん孔細菌病、モモハモグリガ、ナシヒメシンクイ、ハマキムシ類、カメムシ類

散布量：10a当り 500ℓ

※ムッシュボルドーDFに代えてコサイド3000の2000倍を使用してもよい。

※薬害の発生が心配される場合は、クレフノン100倍を加用する（ただし、汚れに注意）

*スミチオン乳剤の加用は1回目のみとし、2～3回目のボルドー散布時は加用しない。

【注意事項（共通）】

アビオンEに代えて、KKステッカーの3000倍でもよい。

*KKステッカーは薬液をよく攪拌させながら必ず最後に加用する。

①台風等で強風・降雨が予想される場合は、風雨前の予防散布を徹底する。

②コスカシバの発生園は、落葉後に(劇)ラビキラー乳剤200倍（休眠期・1回）を樹幹および主枝に十分に散布する。

散布日	月	日
散布量		ℓ

次面もご覧ください

ネクタリン

収穫後。下記のいずれかを選択して散布下さい。

ボルドー 体系

ムッシュボルドー 体系

散布時期：9月上旬～（収穫後）

散布薬剤： 水 100ℓ
展着剤（アビオンE） 50ml
ICボルドー412 3.3kg
⑧ダイアジノン水和剤34（21日前、3回） 100g

対象病害虫：せん孔細菌病、シンクイムシ類、
ハマキムシ類、クワコナカイガラムシ若齢幼虫

散布量：10a当り 500ℓ

※※ICボルドーは、今後収穫を迎える隣接園の果実に飛散しないように注意する。（汚れに注意）

散布時期：9月上旬～（収穫後）

散布薬剤： 水 100ℓ
展着剤（アビオンE） 50ml
ムッシュボルドーDF 200g
⑧ダイアジノン水和剤34 100g

対象病害虫：せん孔細菌病、シンクイムシ類
ハマキムシ類、クワコナカイガラムシ若齢幼虫

散布量：10a当り 500ℓ

※ムッシュボルドーDFに代えて、コサイド3000の2000倍を使用してもよい。

※薬害の発生が心配される場合は、クレフノン100倍を加用する（ただし、汚れに注意）

【注意事項】

アビオンEに代えて、KKステッカーの3000倍でもよい。

*KKステッカーは薬液をよく攪拌させながら必ず最後に加用する。

①台風等で強風・降雨が予想される場合は、風雨前の予防散布を徹底する。

②コスカシバの発生園は、フェニックスフロアブルの500倍（開花期まで・1回）を樹幹および主枝に十分散布する。

もも【縮葉病】対策について

【病徴】：主に葉に発病する。

⇒発芽と同時に発病し、展葉後に黄色～赤色、火膨れ状の病斑が現れ奇形化する。その後は変色し落葉する。

【発病条件】：菌は、枝や芽の表面に付着して越冬し、開花期頃の降雨によって若い葉に侵入して発病。発芽～5月下旬まで気温が低く降雨が多い時に発生。

【防除対策】

- ・菌が枝などの表面に付着しているので発芽前の薬剤散布によって薬液が直接菌と接触しやすく、防除効果は高い。通常、1回の発芽前散布で十分な効果が得られる。
- ・風のない穏やかな日を選び、散布むらのないよう十分な量を散布する。発芽期以降に防除すると著しく防除効果が劣る。

～縮葉病 次年度に向けての防除対策～

散布時期：10月～11月

散布薬剤： 水 100ℓ
展着剤（ハイテンパワー） 10ml
オキシラン水和剤 200g ※ネクタリンに登録無し

対象病害虫：縮葉病

散布量：10a当り 500ℓ ※樹体・枝先に十分かかるよう散布する